

三大学技術職員連携報告

三大学技術職員連携会議について

開催期日 平成 29 年 12 月 2 日(土)

出席者 新潟大学： 弦巻 明、羽鳥 拓

(敬称略) 富山大学： 丸山 博、田村 隆文、織田 世起(事務)

長崎大学： 野村 謙次、長岡 順子、勝河 史典、梶 聖悟、山本 正幸、
近藤 睦浩、高嶋 恵佑、林田 将充、西村 泰央、久田 英樹

開催場所 長崎大学工学部 総合教育研究棟 207 講義室

開催日程 10：30～12：00

議題 1. 各大学の技術部・社会貢献事業等の取り組みの報告

1) 長崎大学 久田 英樹、勝河 史典

2) 新潟大学 弦巻 明、羽鳥 拓

3) 富山大学 田村隆文、丸山 博

議題 2. 三大学連携事業の検討

1) 委託加工等の技術供与等

12：00～13：00 懇談会(昼食) 12:30～龍踊り

・コマ大戦(資料 1)

15：00～16：30 施設・設備見学 (5 軸マシニングセンター)

議題 1. について

3 大学連携会議では、長崎大学、新潟大学、富山大学の順で技術部の取り組みを報告した。

長崎大学は、全学支援(医工連携、機器分析)、国際貢献(ミャンマー教育拡充プロジェクト)、九州地区大学等ガラス細工研修、社会貢献、創造工房の取り組みを報告した。

新潟大学は、多彩な社会貢献事業(出前工作教室)や「新潟大学ブランド雪椿オイル」の開発プロジェクトの取り組みを報告した。

富山大学は、技術職員研修やグループ研修、セミナーの開催、夢大学への参加、前回のアイデア展で話題となった全日本製造業コマ大戦について報告した。

社会貢献活動の出前工作教室の話題では、新潟大学は同じスタッフであっても工学部教員から要請があったものに関しては業務として扱われ、技術部主催のものはボランティアとして扱われるというように区分けがはっきりしていた。富山大学は工学部のイベントなので業務として、長崎大学はそこが曖昧ですべてボランティアとして取り扱われている。

議題 2. について

コマ大戦(資料 1)等、3 大学間で共有できる課題を見つけるなど、3 大学の技術職員の技術向上に繋がることを模索する。

委託加工など各大学の設備を利用し、自前でできない所を協力し合うことを確認した。

資料 1

3 大学技術職員コマ大戦報告

コマ大戦は、全国の中小製造業が自社の誇りを賭けて作成したコマを持ち寄り、土俵の上で対決で戦う。試合はトーナメント戦で優勝したチームは、その大会の出場コマを「総取り」できる。コマ大戦公式戦で使用されるケンカゴマは直径 20.0mm 以下、全長 60.0mm 以内。この小さなコマを、製造業に携わるプロが本気で設計し、プロの機械を使用して自社の持てる技術をすべて注ぎ込んで製作する。これに肖り、技術職員の技術向上を目指すため、本大会に参戦できるような実力を身に付けたいと思い、3 大学技術職員に声掛けをした。

新潟×富山×長崎 コマ大戦



富山大学の田村さんにコマ大戦で実際に使われる土俵を持参頂き、それぞれが作ってきたコマをまわして勝負をした。

富山大学は、富山ブラック(軽量タイプのもの)やガラス細工のものなどを、新潟大学は、ベアリング入りのもの、タングステン素材のものなどを、長崎大学はボールペン先利用のもの、ベアリング玉入りのものなどを披露した。

結果、新潟大学の弦巻さんが持参したタングステン素材のコマが一番強かったようである。

このようなものづくりを学生にも広めたいと思い、ものづくり・アイデア展の会場で行ったが、学生よりも、先生方が興味を示されていたので、今後の連携のアイテムの一つになりそうなので良かったと思う。

実際土俵でコマ回してみても、良く回るコマより長生きしなくても重量感あふれるコマがはじかれず強く有利だと感じた。

参加者の皆さんは、コマ大戦の時間が十分取れず、トーナメント戦で戦うことができなかったため、不完全燃焼の感があったが、今回はお披露目ということで勘弁していただきたい。

次回の第 16 回学生ものづくり・アイデア展 in 新潟大学では、もっと盛大なコマ大戦になることを期待したい。

教育研究支援部 久田英樹